

平成28年11月の大阪森林便り



今月の木の話

衝撃吸収効果

慌てて転んでも、あまり痛くないのはなぜ？

- ・人間は歩くときに体重の2～3割の力を足の関節にかけています。そのため、関節への負担も大きく、足の衝撃も少なくありません。
- ・硬い床ではこの衝撃を吸収できず、すべて足で受け止めなくてはならないため、とても歩きにくく感じます。
- ・柔らかい床も歩きづらいもの。厚いじゅうたんのような床では、歩くのに必要な足の手前まで吸収してしまい、足に余計な力を入れることになって疲れてしまいます。
- ・硬そうに見える木には、程よい弾力性があり、ショックを和らげてくれます。歩くための余分な衝撃を吸収してくれます。
- ・昔から劇場などの舞台の床に木材が使用されてきたのは、木の衝撃を吸収する性質を活かしたものです。衝撃を上手に吸収し、万一の場合に安全な素材が必要だったのです。
- ・スポーツをする体育館の床に木材が使われているのも、まったく同じ理由からです。

(社団法人福岡県木材組合連合会「木のある生活」より抜粋)



北米産丸太が一段高 10月積み 対日価格

北米産丸太の対日輸出価格が一段高。2か月連続の値上がり。米国で11月以降、丸太の伐採減が予想されていることも上昇要因。

(2016年10月5日 日本経済新聞記事から抜粋)



住宅用木材の需要堅調 国産針葉樹合板 2か月ぶり値上がり

米材製材品も出荷伸びる

- ・合板の10月上旬時点の東京の間屋卸価格は前月比2%高。2015年7月から上昇傾向。
- ・在庫水準も下がっています。8月末の針葉樹合板の在庫量は前年同月比40%減。14か月連続で適正水準とされる1か月分の生産量を下回っています。
- ・中国木材は、米松KD平角材の出荷が1割程度増加。銘建工業も集成平角や集成管柱の出荷が前年を1割程度上回っています。
- ・合板の卸価格は少なくとも12月までは強含みで推移。
- ・米材製材品と集成材は販売競争が激しく値上がりしにくく、年内はいずれも横ばいで推移するとの見方が多くなっています。

(2016年10月12日 日本経済新聞記事から抜粋)

南洋材丸太9月 対日価格が上昇 3か月連続

住宅の内装材に使う南洋材丸太の対日価格が小幅上昇しました。9月積み対日輸出成約価格は前月比1%高くなっています。値上がりは3か月連続。

7月から丸太の輸出割当量が削減され、産地側の輸出余力が低下。マレーシアで環境保護のための伐採規制が続いていることも影響しました。

(2016年10月20日 日本経済新聞記事から抜粋)

木材自給率33.3%に上昇 木材振興策じわり浸透 林野庁

林野庁が公表した平成27年の木材需給表によると、総需要量は7530万m³(前年比0.7%減少)となり、国内生産量25,058,000m³(同6.0%増加)と輸入量50,242,000m³(同3.7%減)との比較により、木材自給率は前年から2.1%増加して33.3%となりました。平成23年以降5年連続の増加です。

木材自給率が一番高かったのは昭和35年の89.2%。自給率は昭和40年の73.7%から急速に減少し続け、平成12年の18.9%が最低値。

総需要量は平成元年の1億1598万8千m³が最高値。平成21年には6479万9千m³の最低値を記録。

(2016年10月20日 東洋木材新聞記事から抜粋)



統計からみる近畿林業 実態が浮き彫り 近畿農政局

近畿農政局が「近畿林業の概要」を公表。平成27年の近畿の総土地面積は274万ha、うち林野面積が66%（181万ha）を占めます。兵庫県が最も広く、林野率は奈良、和歌山、京都で7割を超えます。全国では高知が83.6%で第1位、奈良が76.9%で5位、和歌山は76.4%で6位。

近畿の林家数は7万戸で全国の8%。素材生産量は79万9千m³で全国4位。

平成27年の近畿の製材工場数は638工場で減少に歯止めがかかりません。
(2016年10月20日 東洋木材新聞記事から抜粋)



国産針葉樹合板 在庫量2%減少 9月末、6か月連続

農林水産省が発表した国産針葉樹合板の9月末の在庫は、前月比2%減りました。減少は6か月連続。2014年3月以来の低水準。出荷が生産を上回る状況が続いています。

9月の生産は前月比9.8%増。出荷も同6.7%伸びており、在庫は15ヵ月連続で適正水準とされる1か月分の生産量を下回りました。

(2016年10月26日 日本経済新聞記事から抜粋)

